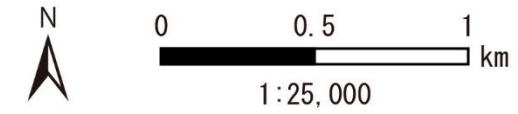


凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域 (土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等

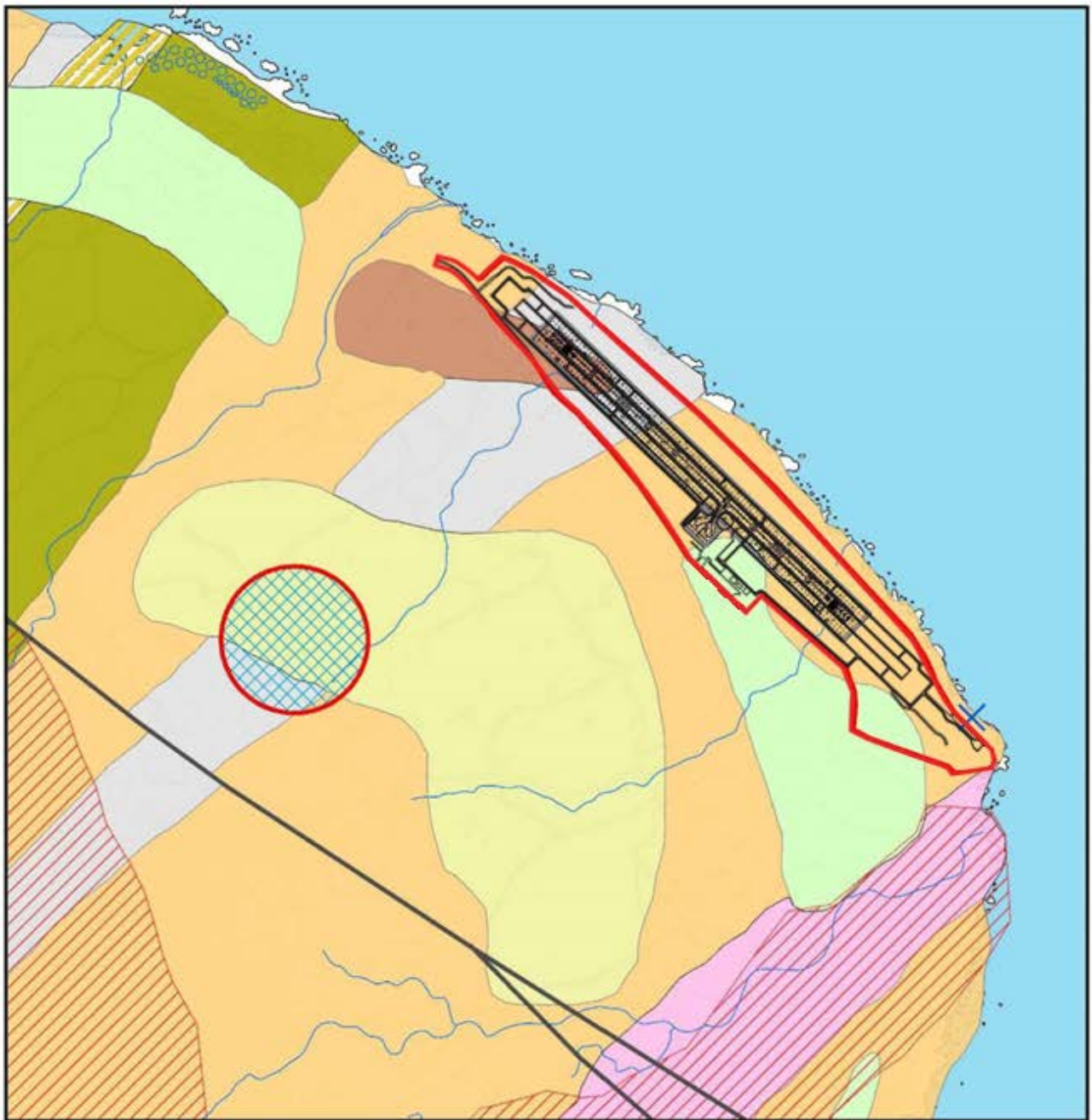
- B 玄武岩質岩石
- altssh 砂岩・頁岩互層 (熊毛層群)
- sg 砂・礫
- ss 砂岩 (熊毛層群)
- sh 頁岩 (熊毛層群)
- 走向・傾斜
- 断層




















- 地質時代 Tp 古第三紀
D 洪積世
- 岩体の硬さ 3 硬 (弾性波速度3.0km/sec以上)
- 岩片の硬さ b 中 (耐性強度100~400kg/cm²)
c 硬 (耐性強度400kg/cm²以上)
- 風化状況 β 中程度 (約10m以浅)

出典：「土地分類基本調査図 表層地質図 (屋久島西南部・屋久島東南部・口永良部島・屋久島西北部・屋久島東北部) (国土調査昭和54年6月25日指定 (国土庁告示第2号))

図 3.1-10 表層地質図

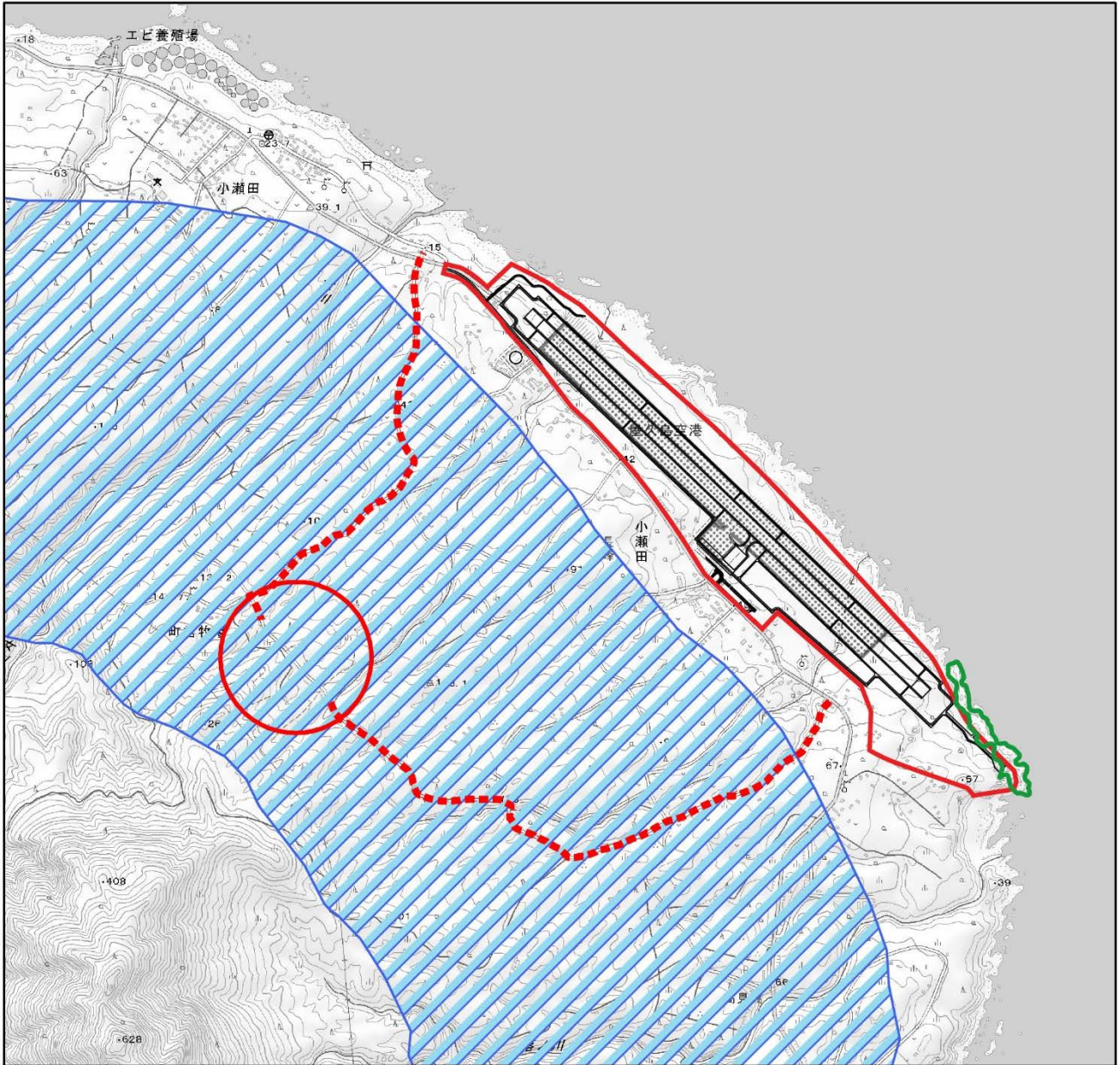


凡例

- | | | | | | |
|---|------------------------------|---|-------------------|------------------------|---|
|  | 対象事業実施区域 |  | 現滑走路等 | 0 0.5 1 km
1:25,000 |  |
|  | 対象事業実施区域(土砂採取区域) |  | 新滑走路等 | | |
|  | 休廃止鉱山(県指定天然記念物 早崎海岸の鉱脈群) | | | | |
|  | 活断層ライン | | | | |
|  | 岩塊、礫及び砂 |  | 礫及び砂、小瀬田火砕流堆積物を挟む | | |
|  | 接触変成帯(董青石ホルンフェルス、黒雲母ホルンフェルス) |  | 紫蘇輝石デイサイト軽石及び火山灰 | | |
|  | 泥岩 |  | 角閃石デイサイト軽石及び火山灰 | | |
|  | 砂岩 | | | | |
|  | 砂岩及び泥岩 | | | | |
|  | 砂岩泥岩互層 | | | | |
|  | 破断した砂岩泥岩互層、及び砂岩と泥岩からなる混在岩 | | | | |

出典：産総研地質調査総合センター
20万分の1地質図幅

図 3.1-11 地質図



凡例

- 対象事業実施区域
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 資材運搬車両経路
- 海成段丘
- 屋久島早崎海岸の鉾脈群

0 0.5 1 km

1:25,000



出典：「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」

図 3.1-12 海成段丘の位置

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1) 動物

(1) 既存文献調査

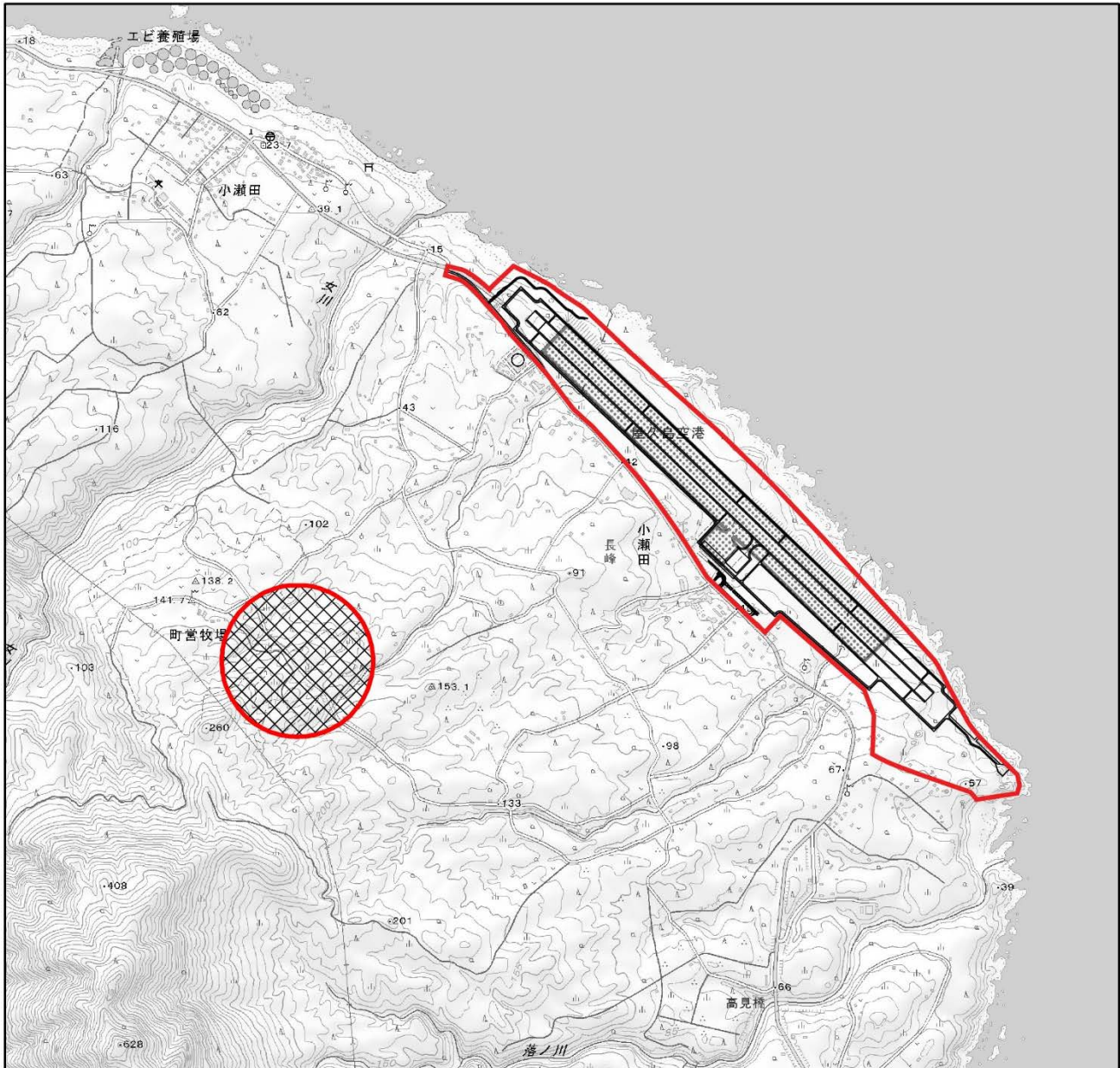
既存文献にて屋久島での分布が確認された重要な動物種の情報を収集・整理した。重要な種の選定基準は表 3.1-16 に示すとおりである。

また、屋久島は 1,800m 以上の山が多くみられ生態系が多様で種も多いため、環境特性を参考に、種の抽出は図 3.1-13 に示す事業実施区域周辺の範囲とした。なお、事業実施区域での標高は空港において約 37m、土砂採取区域は平均 153m となっている。

表 3.1-16 重要な種(動物)の選定基準

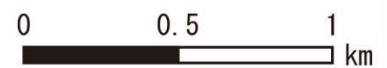
選定根拠		カテゴリー	
略号	名称	記号	区分
天然記念物	「文化財保護法」 (昭和 25 年法律第 214 号)	特	特別天然記念物指定種
		天	天然記念物指定種
種の保存法	「鹿児島県文化財保護条例」 (昭和 30 年鹿児島県条例第 48 号)	天	天然記念物指定種
		国内	国内希少野生動植物種
県の保護条例	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号)	国際	国際希少野生動植物種
		緊急	緊急指定種
県保護条例	「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」 (平成 15 年鹿児島県条例第 11 号)	指定	鹿児島県指定希少野生動植物
		絶滅	絶滅
環 RL	「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト (環境省レッドリスト 2020)」 (令和 2 年、環境省)	野絶	野生絶滅
		Ⅰ A 類	絶滅危惧Ⅰ A 類
		Ⅰ B 類	絶滅危惧Ⅰ B 類
		Ⅱ 類	絶滅危惧Ⅱ 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
		絶滅	絶滅
海洋生物 RL	「環境省版海洋生物レッドリスト(2017)」 (平成 29 年、環境省)	野絶	野生絶滅
		Ⅰ A 類	絶滅危惧Ⅰ A 類
		Ⅰ B 類	絶滅危惧Ⅰ B 類
		Ⅱ 類	絶滅危惧Ⅱ 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
		絶滅	絶滅
県 RDB	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物－ 鹿児島県レッドデータブック 2016－」 (平成 28 年、鹿児島県)	野絶	野生絶滅
		Ⅰ 類	絶滅危惧Ⅰ 類
		Ⅱ 類	絶滅危惧Ⅱ 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
		消滅	消滅(地域個体群)
		野消	野生消滅(地域個体群)
		消Ⅰ 類	消滅危惧Ⅰ 類(地域個体群)
		消Ⅱ 類	消滅危惧Ⅱ 類(地域個体群)
		消危	準消滅危惧(地域個体群)
		情不(地)	情報不足(地域個体群)
水産庁 DB	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編)」(平成 10 年、日本水産資源保護協会)	絶危	絶滅危惧種
		危急	危急種
		希少	希少種
		減少	減少種
		減傾	減少傾向
ウミガメ 条例	鹿児島県ウミガメ保護条例(昭和 63 年鹿児島県条例第 6 号)		「鹿児島県ウミガメ保護条例」により、保護されている種

注) 県 RDB のカテゴリー区分では、分布特性上重要を「現在のところ県内ではごく普通に見られ、絶滅もしくは消滅の危惧は低いと考えられるが、その分布の特性から考えて、今後の動向に注意を払っていくべきであると判断される種」と定義している。現状で明らかに減少傾向を示すような動向は確認されていないため、今回は分布特性上重要に区分されている種は保護上重要な種として扱っていない。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等



1:25,000



図 3.1-13 既存文献調査範囲

ア. 哺乳類

屋久島に生息する重要な哺乳類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-17 に示すとおりであり、ニホンジネズミやコテングコウモリ、ヒメネズミなど、2目3科5種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-17 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な哺乳類

目と名	科と名	種と名	文献番号		選定基準				
			1	2	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環RL	県RDB
モグラ	トガリネズミ	ニホンジネズミ		●					情不
	ヒナコウモリ	ノレンコウモリ		●				II類	II類
		コテングコウモリ	●	●					II類
ネズミ	ネズミ	カヤネズミ							II類
		ヒメネズミ		●					準絶
2目	3科	5種	1	4	0	0	0	1	5

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。
文献番号:

1. 船越公威(平成元年)鹿児島県口之永良部島、屋久島、及び種子島産の翼種類と食虫類哺乳類科学 38:p293-298
2. 環境省自然環境局生物多様性センター(平成14年)生物多様性調査 動物分布調査報告書(哺乳類)

イ. 鳥類

屋久島に生息する重要な鳥類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-18 に示すとおりであり、カラスバトやシロチドリ、ハヤブサなど、7目12科19種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-18 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な鳥類

目と名	科と名	種と名	文献番号		選定基準				
			1	2	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB
ハト	ハト	カラスバト	●		天			準絶	準絶
ペリカン	サギ	チュウサギ	●					準絶	準絶
チドリ	チドリ	シロチドリ	●					Ⅱ類	Ⅱ類
		シギ	ホウロクシギ	●				Ⅱ類	Ⅱ類
			タカブシギ	●				Ⅱ類	Ⅱ類
			ハマシギ	●				準絶	準絶
	タマシギ	タマシギ	●				Ⅱ類	Ⅱ類	
	ツバメチドリ	ツバメチドリ	●				Ⅱ類	Ⅱ類	
	カモメ	コアジサシ	●			国際		Ⅱ類	Ⅰ類
アジサシ		●						情不	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	●					準絶	準絶
	タカ	チュウヒ	●			国内		ⅠB類	Ⅱ類
		ツミ	●						情不
		ハイタカ	●					準絶	準絶
		サシバ	●				Ⅱ類	Ⅱ類	
キツツキ	キツツキ	タネアオゲラ	●					準絶	
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	●			国内	Ⅱ類	Ⅱ類	
スズメ	ヒタキ	キビタキ	●	●					準絶
		リュウキュウキビタキ	●						準絶
7目	12科	19種	19	2	1	2	0	14	19

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 鹿児島県自然愛護協会(昭和59年)市町村別、鳥類分布調査報告書(肝属・熊毛地区)鹿児島県自然愛護協会調査報告第7集
2. 環境省(平成16年)第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査鳥類繁殖分布調査報告書

ウ. 爬虫類・両生類

屋久島に生息する重要な・爬虫類・両生類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-19 に示すとおりであり、アオウミガメ、ヤクヤモリなど 1 綱 2 目 2 科 3 種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-19 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な爬虫類・両生類

綱名	目名	科名	種名	文献番号		選定基準					
				1	2	天然記念物	種の保存法	県保条例	環 RL	県 RDB	ウミガメ条例
爬虫	カメ	ウミガメ	アオウミガメ		●				Ⅱ類	Ⅱ類	○
			アカウミガメ	●	●				ⅠB類	Ⅱ類	○
	トカゲ	ヤモリ	ヤクヤモリ	●					Ⅱ類	Ⅱ類	
1 綱	2 目	2 科	3 種	2	2	0	0	0	3	3	2

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 環境省自然環境局生物多様性センター(平成 13 年)生物多様性調査 動物分布調査報告書(爬虫類・両生類)
2. 鹿児島県(平成 10 年)環境庁委託 海棲動物調査(ウミガメ生息調査)

エ. 昆虫類

屋久島に生息する重要な昆虫類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-20 に示すとおりであり、シロヘリハンミョウやカノミドリトラカミキリ、ツマグロキチョウなど、5目20科36種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-20 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な昆虫類

目名	科名	種名	文献番号						選定基準							
			1	2	3	4	5	6	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環RL	県RDB			
ナナフシ	ナナフシ	コブナナフシ												準絶		
アミメカゲロウ	カマキリモドキ	ツマグロカマキリモドキ	●											情不		
コウチュウ	ハンミョウ	イカリモンハンミョウ		●									IB類	I類		
		ハラビロハンミョウ	●	●										II類	II類	
		シロヘリハンミョウ	●	●											準絶	
	オサムシ	オオヒョウタンゴミムシ	●	●											準絶	
		ツツイキバナガミズギワゴミムシ	●	●											準絶	
	ゲンゴロウ	フタキボシケシゲンゴロウ												準絶	準絶	
	クワガタムシ	ヤクシママダラクワガタ													準消	
		ルイスツノヒョウタンクワガタ		●											準消	
	コガネムシ	ダイコクコガネ												II類	II類	
		ヤクシマコケシマグソコガネ													準絶	
		タネガシマホソケシマグソコガネ													準消	
		シロスジコガネ													情不	
		アカマダラハナムグリ												情不	I類	
	ジョウカイモドキ	イソジョウカイモドキ	●	●										情不	情不	
	ツチハンミョウ	ヒラズゲンセイ													準絶	
カミキリムシ	クロモンキイロイエカミキリ	●	●	●										I類		
	ヨツボシカミキリ	●	●	●									IB類	準絶		
	カノミドリトラカミキリ	●	●	●										準絶		
	コブバネゴマフカミキリ	●	●	●										準絶		
	オキナワサビカミキリ		●	●									II類			
	キクスイカミキリ	●	●	●										消II		
ハチ	アリ	ヤクシマムカシアリ					●									
	スズメバチ	ヤマトアシナガバチ						●						情不		
	アナバチ	ヤマトスナハキバチ												情不	準絶	
		ニッポンハナダカバチ												II類	II類	
	ハキリバチ	キバラハキリバチ												準絶	情不	
チョウ	セセリチョウ	ホソバセセリ	●				●							II類		
	シロチョウ	ツマグロキチョウ	●				●							IB類		
	シジミチョウ	イワカワシジミ													準絶	準絶
		タイワンツバメシジミ本土亜種	●				●								IB類	I類
	タテハチョウ	コムスジ	●				●								消II	
	ヒトリガ	ヤネホソバ	●												準絶	
		マエアカヒトリ	●												準絶	準絶
	ヤガ	ベニモンコノハ													情不	
5目	20科	36種	17	13	6	4	1	1	0	0	0	22	28			

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

- 岡留恒丸(昭和48年)屋久島の昆虫相 屋久町教育委員会
- 中根猛彦(昭和59年)屋久島に産する甲虫類について 屋久島の自然 p587-631
- 森一規(昭和63年)鹿児島県産カミキリムシ分布表 SATSUMA37(100)p119-148
- 福田晴夫(平成4年)鹿児島島のチョウ春苑堂出版
- 寺山守・山根正気(昭和59年)屋久島のアリ-垂直分布を中心に- 屋久島の自然 p660-665
- 山根正気(昭和59年)屋久島のスズメバチ相 屋久島の自然 p633-641

オ. 甲殻類

屋久島に生息する重要な甲殻類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-21 に示すとおりであり、オニヌマエビやムラサキオカヤドカリなど、1目4科6種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-21 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な甲殻類

目と名	科と名	種と名	文献番号		選定基準				
			1	2	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環RL	県RDB
エビ	ヌマエビ	オニヌマエビ	●						準絶
		ヤマトヌマエビ	●						準絶
	テナガエビ	コツノテナガエビ	●						準絶
		ツブテナガエビ	●					準絶	準絶
	サワガニ	ヤクシマサワガニ	●						準絶
	オカヤドカリ	ムラサキオカヤドカリ	●	●	天				
1目	4科	6種	6	1	1	0	0	1	5

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 鈴木廣志(平成28年)薩南諸島の陸水産エビとカニ-その種類と生物地理-, (鹿児島大学生物多様性研究会編)奄美群島の生物多様性研究最前線からの報告, p278-347, 南方新社
2. 鹿児島県教育委員会(昭和61年)鹿児島県のオカヤドカリ属-生息実態緊急調査報告書-

カ. 汽水・淡水産魚類

屋久島に生息する重要な汽水・淡水産魚類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-22 に示すとおりであり、ニホンウナギやハゼ類など、3目5科15種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-22 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な汽水・淡水産魚類

目 and 名	科 and 名	種 and 名	文献番号		選定基準				
			1	2	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB
ウナギ	ウナギ	ニューギニアウナギ	●					情不	情不
		ニホンウナギ	●	●				IB 類	I 類
サケ	アユ	アユ	●	●					II 類
スズキ	ツバサハゼ	ツバサハゼ		●				IA 類	I 類
		カワアナゴ	タメトモハゼ		●			IB 類	I 類
	ハゼ	ミミズハゼ属魚類群	●						情不
		ヨロイボウズハゼ		●			指定	IA 類	I 類
		カエルハゼ		●				IA 類	I 類
		アカボウズハゼ		●				IA 類	I 類
		ルリボウズハゼ		●			指定	II 類	II 類
		カキイロヒメボウズハゼ		●				情不	情不
		コンテリボウズハゼ		●				IA 類	I 類
		ゴマハゼ	●					II 類	準絶
		シマエソハゼ		●				IB 類	I 類
ヒラヨシノボリ		●					準絶		
3 目	5 科	15 種	5	12	0	0	2	12	14

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。
文献番号:

1. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records, Bulletin of Kagoshima University Museum No. 9, Hiroyuki Motomura, Shigeru Harazaki (2017)
2. Freshwater fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, H. Motomura and K. Matsuura (eds) Fishes of Yaku-shima Island, Nature and Science, pp249-261
Hiroyuki Motomura, Kaoru Kuroiwa, Eri Katuyama, Hiroshi Senou, Gota Ogihara, Masatoshi Meguro, Yohko Takata, Tomohiro Yoshida, Masahiro Yamashita, Seishi Kimura, Hiromitsu Endo, Atsunobu Murase, Toshihiko Yonezawa, Akihiko Shinomiya, Hiroyuki Motomura (2010)

キ. 陸産貝類

屋久島に生息する重要な陸産貝類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-23 に示すとおりであり、アズキガイやタネガシマイマイなど、2目14科29種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-23 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な陸産貝類

目 和 名	科 和 名	種 和 名	文献番号			選定基準				
			1	2	3	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB
盤足	ヤマタニシ	ヤマタニシ			●					消 II
		ケハダヤマトガイ	●	●	●				準絶	準絶
		ミジンヤマタニシ	●	●	●					準消
	ヤマクルマガイ	ヒメヤマクルマガイ	●		●					準絶
	アズキガイ	フナトウアズキガイ	●	●	●					準絶
		アズキガイ	●	●	●					準消
	ゴマガイ	タネガシマゴマガイ	●	●	●					準絶
		ヤクシマゴマガイ	●	●	●				準絶	準絶
	ヘソカドガイ	ウスイロヘソカドガイ								準絶
		オオウスイロヘソカドガイ	●		●					準絶
ヘソカドガイ				●					準絶	
柄眼	スナガイ	スナガイ							準絶	準絶
	キセルガイ	イトカケノミギセル	●	●	●				II類	II類
		ウチマキノミギセル			●				II類	準絶
		タネガシマギセル	●	●	●				準絶	準絶
		ハラプトギセル	●	●	●					準絶
		ヤコビギセル	●	●	●					準絶
		トカラコギセル	●		●					準絶
	タワラガイ	タワラガイ	●		●					準絶
		ヤクシマダワラガイ		●						準絶
	ナタネガイ	カトウナタネガイ			●					準絶
	オカモノアラガイ	ヒメオカモノアラガイ	●		●					準消
	ベッコウマイマイ	コシダカシタラガイ		●						準絶
		マルシタラガイ			●					準絶
	カサマイマイ	タカカサマイマイ	●	●	●				準絶	準絶
	ナンバンマイマイ	タネガシママイマイ	●	●	●				準絶	消 II
	オナジマイマイ	ツバキカドマイマイ	●	●	●				II類	準絶
		ヤクシママイマイ	●	●	●				II類	II類
		チャイロマイマイ	●	●	●					準絶
	2目	14科	29種	20	17	25	0	0	0	10

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。
文献番号:

1. 行田義三(平成19年)屋久島の貝類 屋久町郷土誌 第4巻(自然・歴史・民俗)屋久町郷土誌編さん委員会 p197-221
2. 山根正気、富山清升、松井英司(昭和59年)屋久島原生自然環境保全地域で得られた若干の無脊椎動物 p701-711、(財)日本自然保護協会
3. 環境省自然環境局生物多様性センター(平成14年)生物多様性調査 動物分布調査報告書(陸産及び淡水産貝類)

ク. 汽水・淡水産貝類

屋久島に生息する重要な汽水・淡水産貝類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-24 に示すとおりであり、カシノメガイやハマシイノミガイなど、1 目 1 科 4 種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-24 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な汽水・淡水産貝類

目 and 名	科 and 名	種 and 名	文献番号	選定基準				
			1	天然 記念 物	種 の 保 存 法	県 保 護 条 例	環 RL	県 RDB
基眼	オカミミガイ	カシノメガイ	●					準絶
		ソナレガイ	●					準絶
		ハマシイノミガイ	●					準絶
		マクスジコミミガイ	●				準絶	準絶
1 目	1 科	4 種	4	0	0	0	1	4

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。
文献番号:

1. 行田義三(平成 19 年)屋久島の貝類 屋久町郷土誌 第 4 巻(自然・歴史・民俗)屋久町郷土誌編さん委員会 p197-221

ケ. 海産魚類

屋久島に生息する重要な海産魚類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-25(1)～(2)に示すとおりであり、9目21科51種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-25(1) 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な海産魚類

目 and 名	科 and 名	種 and 名	文献番号			選定基準				
			1	2	3	環 RL	県 RDB	海洋生物 RL	水産庁 DB	
ネズミザメ	オオセ	オオセ		●				情不		
	テンジクザメ	イヌザメ		●				情不		
	メジロザメ	イタチザメ		●				情不		
ツノザメ	カスザメ	カスザメ						準絶		
エイ	アカエイ	マダラエイ						情不		
	トビエイ	マダラトビエイ		●				情不		
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		●	●	IB類	I類			
アンコウ	アンコウ	キアンコウ							普通	
ダツ	トビウオ	サヨリトビウオ		●				準絶		
ボラ	ボラ	オニボラ		●		情不	情不			
		モンナシボラ		●		情不				
スズキ	ハタ	チゴハナダイ						情不		
		コクハンアラ		●				II類		
		クロハタ						情不		
		タテスジハタ						情不		
		タマカイ						IA類		
		カスリハタ		●				IA類		
		シラスイハタ		●		情不				
		ヒトミハタ		●				準絶		
	テンジクダイ	ヤツトゲテンジクダイ	●	●				情不		
	フエダイ	センネンダイ		●					準絶	
		イトヒキフエダイ							準絶	
	イサキ	ニジコショウダイ		●					情不	
		オシヤレコショウダイ		●					情不	
	チョウチョウウオ	ハクテンカタギ		●				準絶		
	ベラ	クロベラ							準絶	
		ゴシキキュウセン		●					情不	
		メガネモチノウオ		●					準絶	
	ブダイ	コブブダイ						情不		
	イソギンボ	クロギンボ		●				情不		
	ハゼ	ミミズハゼ		●				情不		
		セアカコバンハゼ		●					準絶	
		アカテンコバンハゼ		●					準絶	
		イレズミコバンハゼ							準絶	
コバンハゼ								準絶		
アイコバンハゼ								準絶		
タスジコバンハゼ								準絶		
フタイロサングハゼ			●					準絶		
クマドリコバンハゼ			●					準絶		
フタスジコバンハゼ								準絶		
ムジコバンハゼ								準絶		
ゴマハゼ			●			II類	準絶			

表 3.1-25(2) 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な海産魚類

目 和 名	科 和 名	種 和 名	文 献 番 号			選 定 基 準			
			1	2	3	環 RL	県 RDB	海 洋 生 物 RL	水 産 庁 DB
スズキ	ハゼ	パンダダルマハゼ		●				準絶	
		カサイダルマハゼ						準絶	
		ヨゴレダルマハゼ		●				準絶	
		アカネダルマハゼ		●				準絶	
		ダルマハゼ		●				準絶	
		イトヒゲモジャハゼ							IB類
カサゴ	メバル	ウスメバル							減少
	フサカサゴ	カスリフサカサゴ		●				準絶	
		ダンゴオコゼ						準絶	
9 目	21 科	51 種	1	31	1	5	4	43	2

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, H.Motomura and K.Matsuura(eds). Fishes of Yaku-shima Island Nature and Science, pp27-64 Tomohiro Yoshida, Shigeru Harazaki, Hiroyuki Motomura(2010)
2. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records, Bulletin of Kagoshima University Museum No.9, Hiroyuki Motomura, Shigeru Harazaki(2017)
3. Freshwater fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, H.Motomura and K.Matsuura(eds) Fishes of Yaku-shima Island, Nature and Science, pp249-261 Hiroyuki Motomura, Kaoru Kuroiwa, Eri Katuyama, Hiroshi Senou, Gota Ogihara, Masatoshi Meguro, Yohko Takata, Tomohiro Yoshida, Masahiro Yamashita, Seishi Kimura, Hiromitsu Endo, Atsunobu Murase, Toshihiko Yonezawa, Akihiko Shinomiya, Hiroyuki Motomura(2010)

コ. 海産貝類

屋久島に生息する重要な海産貝類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-26 に示すとおりであり、ウミニナやイソマイマイなど、1 綱 2 目 8 科 12 種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-26 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要な海産貝類

綱	目名	科名	種名	文献番号		選定基準				
				1	2	環 RL	県 RDB	海洋生物 RL	水産庁 DB	
腹足	吸腔	ウミニナ	ウミニナ	●	●	準絶			減少	
		イソコハクガイ	イソマイマイ		●	II 類				
		カワザンショウ	オオウスイロヘソカドガイ	●			準絶			
		タマガイ	ヒロクチリスガイ	●		準絶				
		ムシロガイ	マタヨフバイ		●	準絶				
		イモガイ	ベッコウイモ		●	II 類				
		タケノコガイ	シチクガイ		●	準絶				
	基目	オカミミガイ	ハマシイノミガイ		●	●		準絶		
			ソナレガイ			●		準絶		
			カシノメガイ			●		準絶		
			マクスジコミミガイ			●	準絶	準絶		
			ヘソアキコミミガイ			●	準絶	準絶		
	1 綱	2 目	8 科	12 種	4	10	8	6	0	1

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 屋久島生物多様性保全協議会(平成 25 年) 屋久島の海岸貝類相
2. 行田義三(平成 19 年)屋久島の貝類 屋久町郷土誌 第 4 卷(自然・歴史・民俗)屋久町郷土誌編さん委員会 p197-221

サ. サング類

屋久島に生息する重要なサング類の中から、事業実施区域周辺で生息の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-27 及び図 3.1-14 に示すとおりであり、クシハダミドリイシやムカシサングなど、2 目 4 科 4 種の重要な種の生息が考えられる。

表 3.1-27 事業実施区域周辺で生息の可能性のある重要なサング類

目 和 名	科 和 名	種 和 名	文献番号	選定基準			
			1	環 RL	県 RDB	海洋生物 RL	水産庁 DB
イシサング	ミドリイシ	クシハダミドリイシ	●				減傾
	ムカシサング	ムカシサング	●				減傾
	クサビライシ	クサビライシ	●				減傾
アオサング	アオサング	アオサング	●				減少
2 目	4 科	4 種	4	0	0	0	4

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 屋久島沿岸海洋生物調査団(平成 4 年)屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書

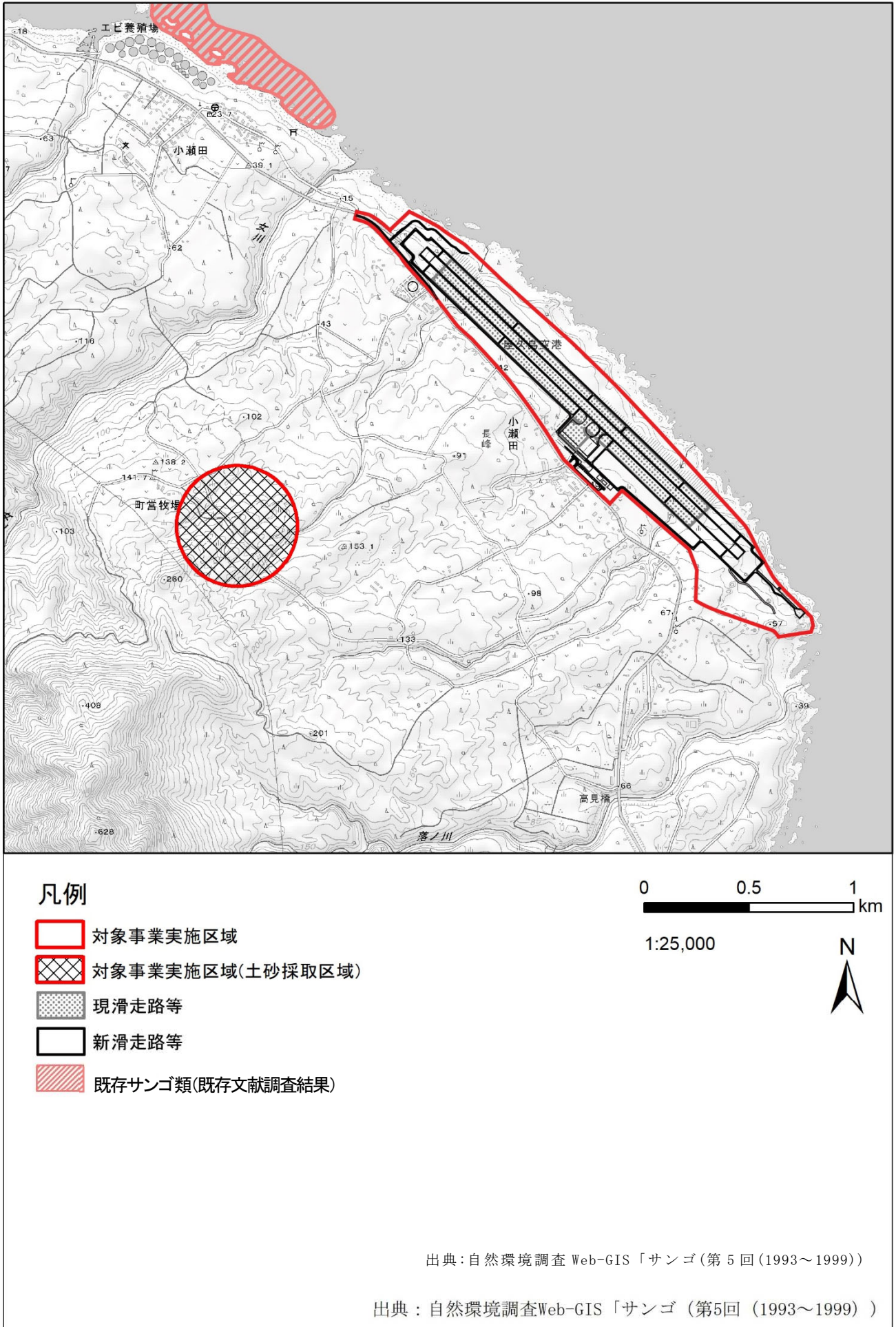


図 3.1-14 サンゴの位置図

2) 植物

(1) 既存文献調査

既存文献にて屋久島での分布が確認された重要な植物種の情報を収集・整理した。重要な種の選定基準は表 3.1-28(1)～(2)及び表 3.1-29 に示すとおりである。

また、屋久島は 1,800m 以上の山が多くみられ生態系が多様で種も多いため、環境特性を参考に、種の抽出は図 3.1-13 に示す範囲とした。なお、事業実施区域での標高は空港において約 37m、土砂採取区域は平均 153m となっている。

表3.1-28 (1) 重要な種(植物)の選定基準

選定根拠		カテゴリー	
略号	名称	記号	区分
天然記念物	「文化財保護法」 (昭和25年法律第214号)	特	特別天然記念物指定種
		天	天然記念物指定種
	「鹿児島県文化財保護条例」 (昭和30年鹿児島県条例第48号)	天	天然記念物指定種
種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年法律第75号)	国内	国内希少野生動植物種
		国際	国際希少野生動植物種
		緊急	緊急指定種
県保護条例	「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」 (平成15年鹿児島県条例第11号)	指定	鹿児島県指定希少野生動植物
環 RL	「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(環境省レッドリスト2020)」 (令和2年、環境省)	絶滅	絶滅
		野絶	野生絶滅
		I A 類	絶滅危惧 I A 類
		I B 類	絶滅危惧 I B 類
		II 類	絶滅危惧 II 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
県 RDB	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物－鹿児島県レッドデータブック2016－」 (平成28年、鹿児島県)	絶滅	絶滅
		野絶	野生絶滅
		I 類	絶滅危惧 I 類
		II 類	絶滅危惧 II 類
		準絶	準絶滅危惧
		情不	情報不足
		消滅	消滅(地域個体群)
		野消	野生消滅(地域個体群)
		消 I 類	消滅危惧 I 類(地域個体群)
		消 II 類	消滅危惧 II 類(地域個体群)
		消危	準消滅危惧(地域個体群)
		情不(地)	情報不足(地域個体群)
		水産庁 DB	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編)」(平成10年、日本水産資源保護協会)
危急	危急種		
希少	希少種		
減少	減少種		
減傾	減少傾向		

表3.1-28 (2) 重要な種(植物)の選定基準

選定基準		カテゴリー等	
略号	名称等	記号	区分
専門家 助言種	<p>専門家の技術的助言において、保護上重要な種として取り扱うことが適切とされた以下の内容を満たす種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋久島で近年確認された新種(新分類群) ・現在は、前述の保護上重要な種の選定基準に該当しないものの、今後記載される可能性が高い種 ・文献等に記載がある種 <p>文献1: 末次健司・山下大明. クロヤツシロラン(ラン科)を屋久島に記録する. 植物地理・分類研究. 66(1):43-46(2018)</p> <p>文献2: KENJI SUETSUGU. <i>Gastrodia kuroshimensis</i>(Orchidaceae:Epidendroideae:Gastrodieae), a new mycoheterotrophic and complete cleistogamous plant from Japan. Phytotaxa. 278(3):265-272.</p> <p>文献3: 末次健司・福永裕一・山下大明. トサノクロムヨウラン(ラン科)を屋久島に記録する. 植物地理・分類研究. 66(1):47-50(2018)</p> <p>文献4: Kenji Suetsugu, Hirokazu Fukunaga. <i>Lecanorchis tabugawaensis</i>(Orchidaceae, Vanilloideae), a new mycoheterotrophic plant from Yakushima Island, Japan. PhytoKeys. 73:125-135(2016).</p> <p>文献5: 末次健司・福永裕一. ムロトムヨウラン(ラン科)を屋久島に記録する. Bunrui. 16(2):207-209(2016)</p> <p>文献6: Kenji Suetsugu. <i>Gastrodia takeshimensis</i>(Orchidaceae), a new mycoheterotrophic species from Japan. Ann Bot. Fennici 50:375-378(2013).</p>	助言	<p>専門家の指摘を受けた以下の6種</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆クロヤツシロラン文献1 ◆クロシマヤツシロラン文献2 ◆トサノクロムヨウラン文献3 ◆タブガワムヨウラン文献4 ◆ムロトムヨウラン文献5 ◆タケシマヤツシロラン文献6

表3.1-29 重要な植物群落の選定基準

選定根拠		カテゴリー		
略号	名称	記号	区分	
天然記念物	「文化財保護法」 (昭和25年5月30日法律第214号)	特	特別天然記念物指定種	
	「鹿児島県文化財保護条例」 (昭和30年12月26日鹿児島県条例第48号)	天(国)	天然記念物指定種(国)	
	「屋久島町文化財保護条例」 (平成19年10月1日屋久島町条例第233号)	天(町)	天然記念物指定種(町)	
特定植物群落	自然環境保全基礎調査「特定植物群落調査」(環境省)	第2回(昭和53年度)、第3回(昭和59~61年度)、第5回(平成9、10年度)調査にて特定植物群落として確認されたもの		
植物群落 RDB	「植物群落レッドデータブック」 (平成8年)	ラン ク	4	緊急に対策必要
			3	対策必要
			2	破壊の危惧
			1	要注意

ア. 陸生植物

屋久島に生育する重要な陸生植物の中から、事業実施区域周辺で生育の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-30(1)～(7)に示すとおりであり、78 科 336 種の重要な種の生育が考えられる。

表3.1-30(1) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準					
		1	2	3	4	5	天然 記念物	種の保 存法	県保護 条例	環 RL	県 RDB	専門家 助言種
マツバラシ	マツバラシ	●	●		●					準絶	準絶	
ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	●	●								準絶	
	コスギラン	●	●								II 類	
	チャボトウゲシバ	●	●								準絶	
	ホソバトウゲシバ	●	●								準絶	
	ホウライハナワラビ	●	●							準絶	準絶	
コシダ(ウラジロ)	カネコシダ	●	●							II 類	II 類	
コケシノブ	リュウキュウホラゴケ	●	●									II 類
	キヨスミコケシノブ	●	●									準絶
	オニホラゴケ	●	●									準絶
ヘゴ	クサマルハチ	●	●									準絶
	チャボヘゴ	●	●									準絶
コバノイシカグマ	コウシュンシダ	●	●	●						II 類	準絶	
	ウスバイシカグマ	●	●	●						準絶	準絶	
ホングウシダ	ヒメホングウシダ	●		●						II 類	II 類	
	サタケホングウシダ		●									準絶
	ホングウシダ	●	●		●							準絶
シノブ	キクシノブ	●	●		●				II 類	II 類		
シシラン	オオバシシラン	●	●							IA 類	I 類	
	ナカミシシラン	●	●		●							準絶
	アマモシシラン	●	●									準絶
イノモトソウ	カワリバアマクサシダ	●	●	●						II 類	II 類	
	オオバナアマクサシダ				●							準絶
	ニシノコハチジョウシダ	●			●							準絶
	ヤワラハチジョウシダ	●			●				IB 類			準絶
	オオアマクサシダ	●	●		●							準絶
	トゲハチジョウシダ	●	●						IB 類			I 類
	ヒカゲアマクサシダ	●	●						IB 類			II 類
	ヤクシマハチジョウシダ	●	●						II 類			準絶
トラノオシダ (チャセンシダ)	オオタニワタリ	●	●		●					II 類	II 類	
	オトメホウビシダ	●	●									準絶
	シマオオタニワタリ	●	●		●					準絶		準絶
	トキワトラノオ	●	●									準絶
	コバノヒノキシダ	●	●									準絶
	チャセンシダ	●										準絶
	イヌチャセンシダ	●	●									準絶
	イワトラノオ	●	●									準絶
シシガシラ	オサシダ	●	●	●								準絶
ツルキジノオ	アツイタ	●	●						II 類			I 類
オシダ	リュウキュウシダ	●	●	●								準絶
	キヨスミヒメワラビ				●							準絶
	ホソバヤブソテツ	●	●									準絶

表3.1-30(2) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準						
		1	2	3	4	5	天然 記念物	種の保 存法	県保護 条例	環 RL	県 RDB	専門家 助言種	
オンダ	ミサキカグマ	●	●									準絶	
	ナチクジャク	●	●									準絶	
	ホコザキベニシダ	●	●									準絶	
	ヌカイタチシダ	●	●									II類	
	ホソバヌカイタチシダ	●	●							IA類		I類	
	イヌタマシダ	●	●									準絶	
	キノクニベニシダ	●	●									準絶	
	クロミベニシダ	●	●									準絶	
	クロミノイタチシダ	●	●									準絶	
	タイトウベニシダ	●	●	●								情不	
	ムラサキベニシダ	●	●							IA類		準絶	
	ムラサキベニシダモドキ	●	●									準絶	
	ミヤマイタチシダ	●			●							準絶	
	ヤマイタチシダ	●										準絶	
	コスギイタチシダ	●	●								準絶	I類	
	コモチイノデ	●	●								II類	II類	
	オオミミガタシダ	●	●									準絶	
	タイワンジュウモンジシダ	●	●	●								準絶	
	ミゾシダ (ヒメシダ)	コバザケシダ	●	●	●								準絶
コウモリシダ		●	●									準絶	
ミミガタシダ		●										準絶	
ヒメミゾシダ		●	●	●						準絶	II類		
オオハシゴシダ		●	●									準絶	
ホソバショリマ		●	●									II類	
タイワンハリガネワラビ		●	●							IB類		I類	
メシダ	ウスヒメワラビ	●	●									II類	
	ホウライウスヒメワラビ	●	●							IA類		I類	
	カラクサイヌワラビ	●	●									II類	
	ホソバヌワラビ	●	●									準絶	
	トガリバヌワラビ	●	●									準絶	
	ナガエヌワラビ	●	●									準絶	
	キリシマヘビノネコザ	●	●									II類	
	ツクシヌワラビ	●	●									準絶	
	ヤクイヌワラビ	●	●							IA類		I類	
	ヒメホウビシダ	●	●	●						II類		II類	
	イヌワラビ	●	●									II類	
	コモチイヌワラビ	●	●							IB類		I類	
	ホウライイヌワラビ	●								IB類		II類	
	シマイヌワラビ	●	●							IA類		II類	
	ヤマイヌワラビ	●	●									II類	
	ヒロハイヌワラビ	●	●									準絶	
	ナンゴクシケチシダ		●							II類		準絶	
	ホソバンケシダ	●			●							準絶	
	ヒトツバシケシダ	●	●									準絶	
	フモトシケシダ	●	●									準絶	
	コヒロハシケシダ											準絶	
	イワヤシダ	●	●									II類	
	イブダケキノボリシダ	●	●							準絶		準絶	
	ニセヒロハノコギリシダ	●										準絶	
	ウライシダ		●									準絶	
	シマシロヤマシダ	●	●									情不	

表 3.1-30(3) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準						
		1	2	3	4	5	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB	専門家助言種	
メシダ	キノボリシダ	●	●									準絶	
	アツバキノボリシダ	●	●									準絶	
	オオバミヤマノコギリシダ											準絶	
	ニセシケチシダ	●										準絶	
	ウスゲアオイガワラビ	●	●									I 類	
	キレハキノボリシダ	●	●									準絶	
	ウスバミヤマノコギリシダ	●	●									準絶	
	ハンコクシダ	●	●								準絶	準絶	
	ニセシロヤマシダ	●	●								II 類	準絶	
	オキナワコクモウクジャク	●	●								準絶		
	ヒメノコギリシダ	●	●								準絶	準絶	
	ヤクシマワラビ	●	●									準絶	
ウラボシ	タイワンクリハラン	●	●								II 類	準絶	
	ヒトツパイワヒトデ	●	●									準絶	
	ホソバミツデウラボシ	●	●									準絶	
	オニマメツタ	●	●	●							IA 類	I 類	
	ヒメノキシノブ	●	●									準絶	
	コウラボシ	●	●		●							II 類	
	ミヤマノキシノブ	●	●		●							準絶	
	サジラン	●	●									II 類	
	ヒメサジラン	●	●									情不	
	タイワンアオネカズラ		●								IB 類	I 類	
イヌガヤ	イヌガヤ	●	●	●	●						準絶		
イチイ	カヤ	●	●	●	●						準絶		
イラクサ	ケナガヤブマオ	●										準絶	
	ナガバヤブマオ	●										準絶	
	ヤマミズ	●	●	●								準絶	
	オオバヒメマオ		●									準絶	
ツチトリモチ	ツチトリモチ	●	●		●							準絶	
	キイレツチトリモチ	●	●									準絶	
タデ	ナガバノヤノネグサ	●			●							準絶	
	ミチヤナギ	●			●							準絶	
ナデシコ	ハマナデシコ		●		●						準絶		
クスノキ	スナヅル	●	●	●								準絶	
	マルバニッケイ	●		●	●						準絶		
ヤマグルマ	ヤマグルマ	●	●								準絶		
キンボウゲ	ビロードボタンヅル	●	●								II 類		
コショウ	サダソウ	●	●		●						準絶		
ウマノスズクサ	クワイバカンアオイ		●							II 類	II 類		
ケシ	シマキケマン	●	●		●						準絶		
フウチョウソウ	ギョボク	●	●								準絶		
アブラナ	ジャニンジン	●	●								準絶		
ベンケイソウ	ハママンネングサ		●								準絶		
	マルバマンネングサ	●	●		●						準絶		
	ヒメレンゲ	●	●		●						準絶		
	コゴメマンネングサ	●	●		●						準絶		
ユキノシタ	ヤクシマガクウツギ	●								準絶	準絶		
	ゴトウヅル(ツルアジサイ)	●	●	●							準絶		
バラ	ヒメキンミズヒキ	●	●								準絶		
	ヤブイバラ	●	●		●						準絶		
	リュウキュウテリハノイバラ										準絶		
	ヤクシマイバラ									準絶	準絶		

表 3.1-30(4) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準						
		1	2	3	4	5	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB	専門家助言種	
バラ	ヤクシマキイチゴ		●	●								準絶	
マメ	ジャケツイバラ	●	●		●							準絶	
	タヌキマメ		●		●							準絶	
	クロヨナ		●									準絶	
イラクサ	ツゲモドキ	●	●	●	●							準絶	
	スナジタイゲキ	●	●		●							準絶	
ミカン	タチバナ	●	●								準絶	II類	
	フユザンショウ		●		●							準絶	
モチノキ	ツゲモチ	●	●		●							準絶	
	リュウキュウモチ	●	●									準絶	
	アオハダ		●									準絶	
	ナガバイヌツゲ											準絶	
	ムッチャガラ		●									準絶	
ニシキギ	リュウキュウマユミ	●	●		●						準絶		
クロウメモドキ	ナンゴクオオクマヤナギ	●	●								準絶		
ブドウ	ミツバビンボウカズラ	●	●								準絶		
アオイ	オオハマボウ(ヤマアサ)		●								準絶		
グミ	台湾アキグミ	●									準絶		
スマレ	リュウキュウシロスマレ	●	●									準絶	
	ヒメスマレ	●	●									準絶	
ミソハギ	ヤクシマサルスベリ	●	●	●							準絶	準絶	
ノボタン	ハシカンボク	●	●									準絶	
	ヒメノボタン	●	●		●						II類	II類	
アカバナ	キダチキンバイ	●	●		●						準絶		
ウリノキ	シマウリノキ	●	●								準絶		
セリ	ヤクシマノダケ	●	●								II類	準絶	
	ヒメウマノミツバ	●	●									II類	
イチヤクソウ	シャクジョウソウ	●	●									II類	
	アキノギンリョウソウ	●	●									準絶	
	イチヤクソウ	●	●	●	●							準絶	
サクラソウ	シマギンレイカ	●	●								準絶	II類	
イソマツ	ハマサジ	●	●		●							準絶	II類
	イソマツ	●	●	●								II類	II類
カキノキ	リュウキュウマメガキ		●		●							II類	
ハイノキ	ヒロハノミミズバイ		●									準絶	
モクセイ	ナタオレノキ	●	●		●							準絶	
	オオモクセイ	●	●								IB類	準絶	
リンドウ	シマセンブリ		●		●							準絶	
	リュウキュウコケリンドウ	●			●							II類	I類
	センブリ	●	●		●							準絶	
	ヘツカリンドウ	●	●									準絶	
キョウチクトウ	チョウジカズラ	●	●									準絶	
	ケテイカカズラ	●	●									準絶	
トウワタ	イヨカズラ	●	●									準絶	
	シタキシソウ		●									準絶	
アカネ	ヘツカニガキ	●	●									II類	
	ケハダルリミノキ	●										準絶	
	マルバルリミノキ	●	●	●								準絶	
	ヒメツルアリドオシ	●										I類	
	ヒロハコンロンカ	●	●									準絶	
	チャボイナモリ	●	●	●								II類	
	ミサオノキ	●	●									準絶	

表 3.1-30(5) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準							
		1	2	3	4	5	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB	専門家助言種		
アカネ	シロミミズ	●	●									準絶		
ヒルガオ	ホルトカズラ	●	●									準絶		
クマツヅラ	トサムラサキ	●	●	●							II類	準絶		
シソ	オキナワクマバナ	●										準絶		
	ヒメキセウタ		●								II類	II類		
	トラノオジソ											準絶		
	ウツボグサ	●	●	●	●							準絶		
	コナミキ	●			●						II類	II類		
	シソバタツナミ	●	●		●							準絶		
	アカボシタツナミソウ	●	●									準絶		
	ニガクサ	●	●	●								II類		
	ツルニガクサ	●	●									準絶		
ゴマノハグサ	ゴマクサ	●									II類	II類		
	シマウリクサ	●	●									準絶		
	カワヂシャ	●	●								準絶	準絶		
イワタバコ	タマザキヤマビワソウ	●	●									準絶		
スイカズラ	ニシキウツギ	●		●								準絶		
オミナエシ	オミナエシ		●									準絶		
クサトベラ	クサトベラ	●			●							準絶		
キク	リュウキュウハグマ												準絶	
	ヒメヨモギ	●	●										準絶	
	センダングサ				●								準絶	
	ヤブタバコ	●	●		●								準絶	
	イズハハコ	●	●		●						II類	準絶		
	シマフジバカマ	●	●		●							準絶		
	カンツワブキ	●	●										準絶	
	ハイニガナ	●	●										準絶	
	ヤナギニガナ		●								II類	準絶		
	ホソバニガナ		●								I B類	I類		
	コスギニガナ										II類	II類		
	チョウセンヤマニガナ	●	●										準絶	
	ヒナヒゴタイ	●	●								I B類	II類		
	メナモミ		●		●								準絶	
	シマコガネギク												II類	
	シロバナタンポポ	●	●										準絶	
	オオキダチハマグルマ	●											準絶	
	ユリ	ヤマラッキョウ	●	●	●	●								準絶
ホウチャクソウ		●	●		●								II類	
ツクシショウジョウバカマ		●	●		●								準絶	
ジャノヒゲ			●										準絶	
ナガバジャノヒゲ		●	●										準絶	
オモト		●	●										準絶	
ヤマカシュウ		●	●										I類	
キンバイザサ	キンバイザサ	●			●								準絶	
	コキンバイザサ	●			●								準絶	
アヤメ	ヒオウギ	●	●		●							準絶		
ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	●											II類	
	シロシヤクジョウ	●											II類	
	ルリシヤクジョウ	●											I類	
イネ	チョウセンガリヤス	●			●								II類	
	カモノハシ	●	●	●	●								準絶	

表 3.1-30(6) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準							
		1	2	3	4	5	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB	専門家助言種		
イネ	ハイシバ											準絶		
	オオササガヤ	●	●									準絶		
	シマチカラシバ	●			●							準絶		
	ツキイグ	●			●							準絶		
	ナガミノオニシバ	●										準絶		
ヤシ	ビロウ	●	●									準絶		
サトイモ	ヤマコンニャク	●	●		●					II類		準絶		
カヤツリグサ	イトハナビテンツキ		●										準絶	
	マツバスゲ		●	●	●								準絶	
	ハナビスゲ	●								II類			準絶	
	サナギスゲ	●	●	●									準絶	
	ナキリスゲ	●											準絶	
	キシウナキリスゲ	●	●							II類			II類	
	ウシクグ	●	●										準絶	
	オノエテンツキ	●	●							II類			準絶	
	ヤリテンツキ	●	●		●					準絶			準絶	
	シマテンツキ		●										I類	
	イヌノハナヒゲ	●	●		●								準絶	
	イトイヌノハナヒゲ	●	●										準絶	
	ケシンジュガヤ	●											準絶	
	オオシンジュガヤ	●	●		●								準絶	
	ラン	エンレイショウキラン										IA類		I類
オキナワチドリ		●	●		●						II類		準絶	
タネガシマムヨウラン		●	●		●						IB類		II類	
ヤクシマラン		●	●								IB類		I類	
マメヅタラン		●	●								準絶		II類	
ムギラン		●	●	●							準絶		II類	
ミヤマムギラン		●	●								準絶		II類	
ダルマエビネ		●			●						II類		I類	
キシマエビネ									指定		IB類		I類	
ツルラン		●	●		●						II類		II類	
トクサラン		●	●		●						準絶		I類	
レンギョウエビネ		●	●						指定		II類		I類	
オナガエビネ		●							指定		II類		I類	
キエビネ		●	●		●						IB類		II類	
タネガシマカイロラン		●									II類		I類	
アキザキナギラン											IB類		I類	
カンラン		●	●						指定		IB類		I類	
ナギラン		●	●								II類		準絶	
マヤラン		●	●								II類		I類	
セッコク		●	●		●								準絶	
キバナノセッコク		●	●		●				指定		IB類		II類	
カキラン		●	●		●								準絶	
オサラン		●	●								II類		II類	
イモネヤガラ		●	●								IB類		I類	
ハルザキヤツシロラン		●									II類		II類	
アケボノシュスラン		●	●	●									準絶	
ハチジョウシュスラン		●											準絶	
カゴメラン		●	●										準絶	
ヤクシマシュスラン			●										準絶	
ツリシュスラン		●	●	●									II類	
シュスラン	●	●	●	●								準絶		

表 3.1-30(7) 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な陸生植物

科和名	種和名	文献番号					選定基準							
		1	2	3	4	5	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環 RL	県 RDB	専門家助言種		
ラン	ムカゴトンボ	●	●								I B 類	準絶		
	ムカゴソウ	●	●		●						I B 類	準絶		
	カゲロウラン	●	●		●						準絶	II 類		
	ヒメノヤガラ	●	●								II 類	II 類		
	ヤクシマアカシュスラン	●	●		●						II 類	準絶		
	ムヨウラン	●	●	●								II 類		
	ウスギムヨウラン		●									準絶	II 類	
	クロムヨウラン	●	●										I 類	
	ムラサキムヨウラン	●										情不	情不	
	ギボウシラン	●	●	●								I B 類	II 類	
	ジガバチソウ	●	●	●	●								II 類	
	ササバラン	●	●									I B 類	I 類	
	チケイラン	●	●									II 類	II 類	
	ヒメフタバラン	●	●										II 類	
	ボウラン	●	●		●								準絶	
	フウラン	●	●		●					指定		II 類	I 類	
	ムカゴサイシン	●	●	●								I B 類	I 類	
	ヨウラクラン	●	●										II 類	
	ガンゼキラン	●	●		●					指定		II 類	II 類	
	カクチョウラン	●			●					指定		II 類	I 類	
	オオバノトンボソウ	●		●	●								準絶	
	カシノキラン	●	●									II 類	II 類	
	マツラン	●	●									II 類	I 類	
	ナゴラン	●	●		●					指定		I B 類	I 類	
	ヒメトケンラン	●	●									II 類	II 類	
	ヤクシマネッタイラン	●	●									I B 類	I 類	
	インガキキヌラン	●	●									II 類	II 類	
	キヌラン	●	●										II 類	
	クロヤツシロラン						●							助言
	クロシマヤツシロラン						●							助言
	トサノクロムヨウラン						●							助言
	タブガワムヨウラン						●							助言
	ムロトムヨウラン						●							助言
タケシマヤツシロラン						●							助言	
ヤクシマヤツシロラン						●			国内					
タブガワヤツシロラン						●			国内					
78 科	336 種	289	281	42	87	7	0	2	8	110	324	6		

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 初島住彦(昭和 61 年)改訂鹿児島県植物目録 鹿児島植物同好会
2. 光田重幸・永益英敏(昭和 59 年)屋久島原生自然環境保全地域のシダ植物相と顕花植物相 (財)日本自然保護協会報告書第 60 号 屋久島の自然 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書 pp103-286 環境庁自然保護局
3. 田川日出夫(平成 19 年)屋久島の植物 屋久町郷土誌 第 4 巻(自然・歴史・民俗)屋久町郷土誌編さん委員会 p96-120
4. 平田浩(平成 29 年)図解九州の植物上下巻南方新社
5. 専門家ヒアリングにおいて助言を受けた種

イ. 藻類

屋久島に生息する重要な藻類の中から、事業実施区域周辺で生育の可能性のある種を抽出した。これらの概要は表 3.1-31 に示すとおりであり、カサノリやトサカノリなど、3 綱 12 科 16 種の重要な種の生育が考えられる。

表3.1-31 事業実施区域周辺で生育の可能性のある重要な藻類

綱	科和名	種和名	文献番号			選定基準							
			1	2	3	天然記念物	種の保存法	県保護条例	環RL	県RDB	水産庁DB		
緑藻	アオサ	スジアオノリ			●							減傾	
	アオモグサ	タンポヤリ	●						準絶	準絶			
	マガタマモ	マガタマモ	●	●					準絶	準絶			
	ハゴロモ	イトゲノマユハキ		●	●					準絶	準絶		
		スズカケモ	●							情不	情不		
カサノリ	カサノリ	●						準絶	準絶		危急		
褐藻	ホンダワラ	ヤバネモク	●						準絶	準絶			
		コバモク			●				II類	II類			
紅藻	ウシケノリ	アサクサノリ	●						I類	I類		絶危	
	コナハダ	アケボノモズク	●						情不	情不			
	アツバノリ	アツバノリ			●				情不	情不			
	ミリン	トサカノリ	●						準絶	準絶		減傾	
	コノハノリ	ホソアヤギヌ		●					準絶	準絶			
	フジマツモ	ツクシホオズキ		●	●					準絶	準絶		
		タニコケモドキ		●						準絶	準絶		
ハナヤナギ		●	●	●					II類	II類			
3 綱	12 科	16 種	9	6	6	0	0	0	15	15	4		

注) ●印は以下に示す文献等により事業実施区域周辺において生息が確認された種を示す。

なお、当該文献等において生息場所が明示されていない種についても生息の可能性があると抽出している。

文献番号:

1. 新村巖(平成2年)鹿児島県水産試験場起用第13集鹿児島県海藻目録
2. WWF ジャパン(平成21年)WWF ジャパン南西諸島生物多様性評価プロジェクト フィールド調査報告書
3. 屋久島沿岸海洋生物調査団(平成4年)屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書

ウ. 植生

事業実施区域周辺の植生の状況は、図 3.1-15 に示すとおりである。

事業実施区域周辺には、平地にスギ・ヒノキの植林やシイ・カシ二次林、ハドノキーウラジロエノキ群団などの二次林が広く分布している。また、畑地、休耕地、牧草地、茶畑などもパッチ状に分布している。海岸部は断崖になっている場所が多く見られ、そのような場所にはトベラーウバメガシ群集が成立している。また海浜部ではリュウキュウチク群落となっている箇所も見られている。

また、重要な植物群落等の状況として、表 3.1-32 に示すとおり屋久島町に 17 箇所、天然記念物が指定されており、重要な群落では 16 種の群落が選定されている。特定植物群落の分布状況として、表 3.1-33 及び表 3.1-34 に示すとおり屋久島町において、ヤクスギ原生林等の 12 群落を選定されている。

なお、事業実施区域周辺では重要な植物群落等は指定されていない。

表3.1-32 屋久島における天然記念物(植物)一覧

指定	名称	所在地	所有者又は管理者 ・保護団体	指定年月日
国指定	屋久島スギ原始林 (特別天然記念物)	屋久島	農林水産省	昭 29. 3. 20
	ヤクシマカワゴロモ 生育地	屋久島町一湊川、 白川	屋久島町	平 22. 8. 5
屋久島 町指定	スナヅル	栗生西宮原	屋久島町	昭 45. 11. 16
	ツキイゲ	栗生西宮原	屋久島町	昭 45. 11. 16
	メヒルギ	栗生満泊	屋久島町	昭 45. 11. 16
	カンノンチク	平内大山	平内	昭 45. 11. 16
	ポンカン原木	平内	個人	昭 45. 11. 16
	モダマ	安房城山	屋久島町	昭 45. 11. 16
	ヒリュウシダ	原	屋久島町	昭 45. 12. 19
	テンバイ	小島	個人	昭 45. 12. 19
	ガジュマル	中間上町	中間集落	昭 45. 12. 19
	キイレツチトリモチ	尾之間	屋久島町	昭 48. 3. 8
	ヤッコソウ	小島	小島集落	昭 48. 3. 8
	モリヘゴ	楠川門前	楠川区	平 8. 2. 27
	クリオザサ	栗生	屋久島町	平 16. 2. 27
	オオタニワタリ	尾之間・湯泊	屋久島町・湯泊集落	平 16. 2. 27
	船行大杉	船行	船行集落	平 16. 2. 27

出典:鹿児島県ウェブサイト「熊毛地区内の指定文化財」
 <<https://www.pref.kagoshima.jp/bb06/kumagebunkazai.html>>

表3.1-33 屋久島における重要な群落一覧

群落種別	名称	場所	ランク
単一群落	屋久島栗生のメヘルギ林	熊毛郡屋久島町	3
単一群落	屋久島志戸子のガジュマル林	熊毛郡屋久島町	2
単一群落	屋久島のスタジイ林	熊毛郡屋久島町	3
単一群落	屋久島国割岳斜面のバリバリノキ群落	熊毛郡屋久島町	2
単一群落	屋久島のヤマグルマ群落	熊毛郡屋久島町	2
単一群落	屋久島のヤクスギ原生林	熊毛郡屋久島町	2
単一群落	屋久島のヤクザサ群落	熊毛郡屋久島町	1
単一群落	屋久島のヤクシマシャクナゲ群落	熊毛郡屋久島町	1
単一群落	屋久島のミヤマビヤクシン群落	熊毛郡屋久島町	3
単一群落	コモチゼキショウ群落	熊毛郡屋久島町	4
単一群落	チャボカワズスゲ・イボミズゴケ群落	熊毛郡屋久島町	4
単一群落	ヤクシマホシクサ群集	熊毛郡屋久島町	4
単一群落	イ・イボミズゴケ群落	熊毛郡屋久島町	4
単一群落	屋久島栗生のツキイゲ群落	熊毛郡屋久島町	3
単一群落	屋久島一湊川のヤクシマカワゴロモ個体群	熊毛郡屋久島町	1
群落複合	花之江河の湿原植生	熊毛郡屋久島町	4

出典：植物群落レッドデータブック 1996(財)日本自然保護協会

表3.1-34 屋久島における特定植物群落

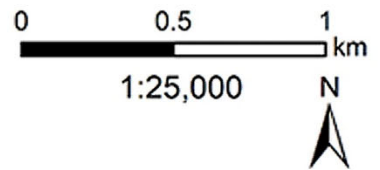
名称	選定基準
屋久島志戸子のガジュマル林	A 原生林もしくはそれに近い自然林
ヤクシマ国割岳斜面のバリバリノキ群落	
屋久島のヤマグルマ群落	
屋久島のヤクスギ原生林	
屋久島瀬切のヤクタネゴヨウ林	
屋久島のスタジイ林	
屋久島のヤクシマシャクナゲ群落	B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
屋久島のヤクザサ群落	
屋久島栗生のメヘルギ林	
屋久島のミヤマビヤクシン群落	C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群
屋久島花之江河の湿原植生	D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
屋久島栗生のツキイゲ群落	
ヤクシマ一湊川のヤクシマカワゴロモ個体群	G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 鹿児島県自然環境情報図」（環境庁、平成元年）
 環境省自然環境保全基礎調査植生調査情報提供サイト「特定植物群落調査第3回」
 <<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-023.html>>



凡例

- | | |
|---------------------|-----------|
| 対象事業実施区域 | 現滑走路等 |
| 対象事業実施区域(土砂採取区域) | 新滑走路等 |
| シイ・カシ二次林 | 牧草地 |
| スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 畑雑草群落 |
| ダンチク群落 | 砂丘植生 |
| トペラーウバメガシ群集 | 竹林 |
| ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林) | 緑の多い住宅地 |
| ヤクシマアジサイースダジイ群集 | 自然裸地 |
| リュウキュウチク群落 | 茶畑 |
| 市街地 | 路傍・空地雑草群落 |
| 常緑果樹園 | 造成地 |
| 放棄水田雑草群落 | 開放水域 |
| 水田雑草群落 | |



出典：第6回、第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 1/25,000 植生図 安房

図 3.1-15 現存植生図

3) 生態系

(1) 陸域生態系

事業実施区域周辺の生物が生育・生息する基盤環境について地形・地質、土壌、植生等の観点から、表 3.1-35 に示すとおり類型区分を行った。

事業実施区域周辺は広く分布する海浜の自然林、平地の二次林等、耕作地、市街地、海岸、河川に大別でき、各環境類型の代表的な生物種は表 3.1-36 に示すとおりである。

表3.1-35 事業実施区域周辺の自然環境の類型区分

類型区分	地形区分	地質区分	土壌区分	植生区分
海浜の自然林	崖	砂岩	岩石地	トベラーウバメガシ群集
平地の二次林	岩石台地	砂、礫	黒ボク土、褐色森林土	シイ、カシ二次林、ハドノキーウラジロエノキ群団、リュウキュウチク群落
平地の植林地	岩石台地	砂、礫	赤黄土	スギ、ヒノキ植林
平地の耕作地	岩石台地	砂、礫	黒ボク土	畑地、休耕地、牧草地、茶畑
平地の市街地	岩石台地	砂、礫	黒ボク土	市街地
海岸	磯、浜	砂岩、頁岩	岩石地	砂丘植生
河川	-	-	-	-

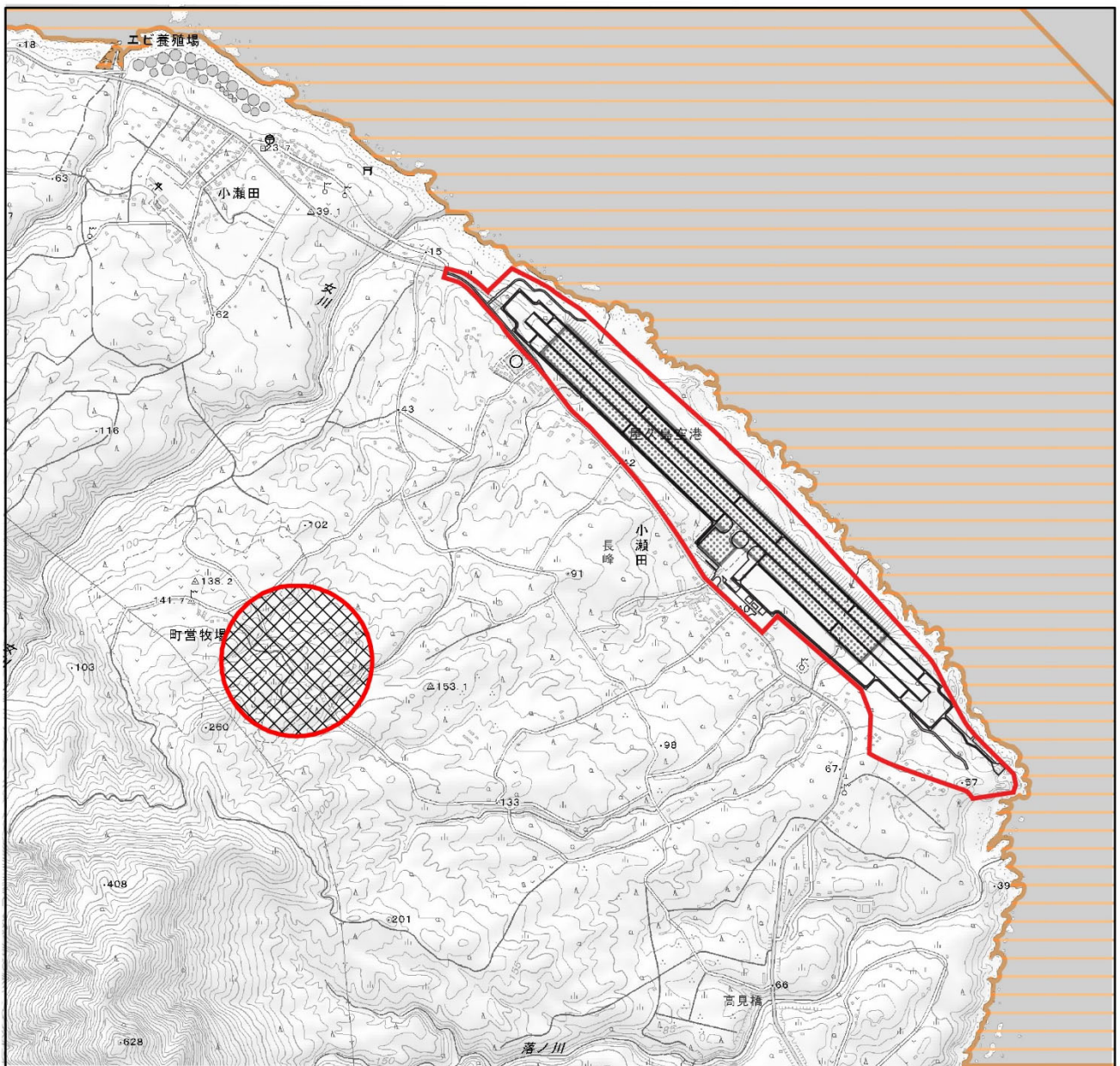
表3.1-36 事業実施区域周辺の環境類型ごとの代表的な生物種

	海浜の自然林	平地の二次林等	平地の耕作地、草地	平地の市街地	海岸	河川
植物	トベラーウバメガシ群集	シイ、カシ二次林、スギ植林地	畑地、休耕地、牧草地	植栽	砂丘植生	-
哺乳類	アカネズミ	ヤクシマザル、ヤクシカ、アカネズミ、	コウベモグラ、カヤネズミ、ニホンイタチ	クマネズミ、ドブネズミ	-	-
鳥類	カラスバト、ヤマガラ、カケス	メジロ、ウグイス、ハイタカ	モズ、ヒバリ、セッカ、ホオジロ	ジョウビタキ、スズメ、ハシブトガラス	ハヤブサ、ミサゴ、イソシギ、トビ、イソヒヨドリ	カワセミ、キセキレイ
爬虫類 両生類	ニホントカゲ	ニホントカゲ、ニホンマムシ、ニホンアマガエル	ニホンカナヘビ、ヤクヤマモリ、ヤマカガシ、ツチガエル	ミナミヤモリ	アカウミガメ、アオウミガメ	-
昆虫類	サツマゴキブリ、カノミドリトラカミキリ	ノコギリクワガタ、ミヤマカラスアゲハ	ナミアゲハ、ショウリヨウバッタ	アブラゼミ、モンシロチョウ、ウスバキトンボ	シロヘリハンミョウ	-
甲殻類	-	-	-	-	オカヤドカリ	ミナミテナガエビ、スジエビ、サワガニ
魚類	-	-	-	-	-	ボラ、オオウナギ、クロヨシノボリ

(2) 海域生態系

屋久島の栗生や春田浜などには比較的規模の大きなサンゴ群集が見られており、屋久島の栗生周辺では 100 種のサンゴが確認されている。サンゴ礁をみると、トカラ列島を挟んで南の奄美群島と北の種子島・屋久島の間では種組成が大きく異なる。屋久島では「沖縄型」「南日本沿岸型」の双方が見られるが、被度でみると上位種はすべて「南日本沿岸型」の種で占められる。事業実施区域周辺では、北西側海域に小規模なサンゴ群集が分布している。サンゴの主な生育型は卓上や被覆状で、その他にソフトコーラルや枝状サンゴが混じっている。

屋久島沿岸域は、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（環境省）に指定されている（図 3.1-16 参照）。屋久島は魚類の多様性が非常に高く、沿岸海域の魚影の濃さ、魚種の豊富さは全国でも指折りである。また、屋久島の砂浜は、アカウミガメ、アオウミガメの産卵場所になっているが、事業実施区域周辺の沿岸は上陸記録がなく、主に岩礁及び礫浜となっている。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 生物多様性の観点から重要度の高い海域

0 0.5 1 km

1:25,000



図 3.1-16 生物多様性の観点から重要度の高い海域

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1) 景観

(1) 主要な眺望点の状況

屋久島の主要な眺望点を表 3.1-37 及び図 3.1-17 に示す。

事業実施区域周辺の眺望点として、「町営牧場」、「ふれあいパーク屋久島」、「空港と種子島を見渡せる広場」及び「愛子岳」がある。

表 3.1-37 主要な眺望点

種類	名称	位置
灯台	屋久島灯台	—
	一湊灯台	—
林道	西部林道	—
展望所	東シナ海展望所	—
	夕日の丘展望所	—
	西郷隆盛上陸の地	—
博物館	屋久杉自然館	—
	屋久島環境文化村センター	—
キャンプ場	屋久島青少年旅行村・キャンプ場	—
牧場	町営牧場	①
公園	山河公園	—
	ふれあいパーク屋久島	②
その他	空港と種子島を見渡せる広場	③
	愛子岳	④

注) 表中の位置の欄の番号は図 3.1-17 内の番号を示す。

出典:やくしまガイドブック(屋久島観光協会)、屋久島町ウェブサイト

(2) 景観資源の状況

事業実施区域周辺に位置する主な景観資源は、表 3.1-38 に示すとおりであり、その位置は図 3.1-17 に示すとおりである。

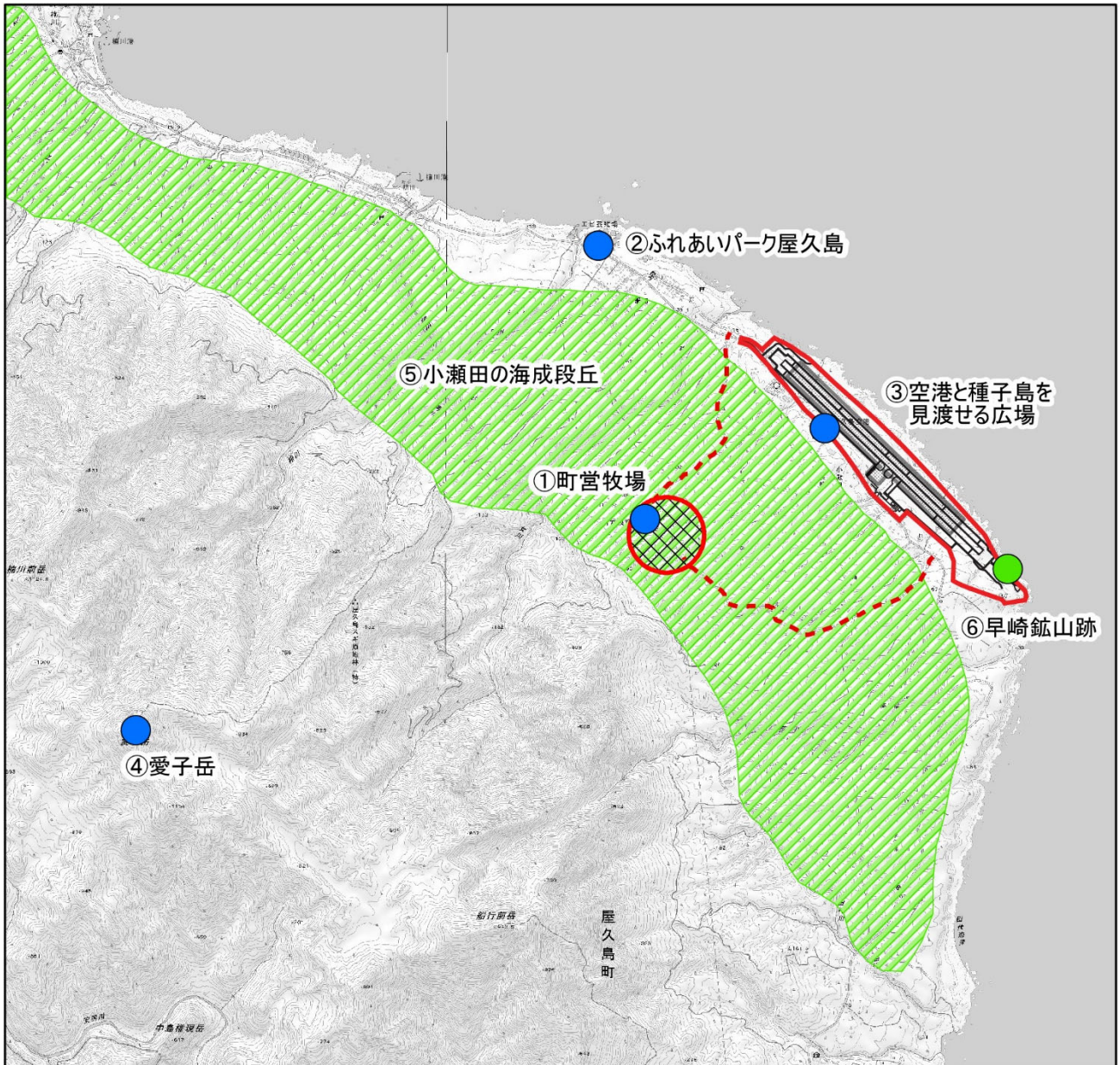
事業実施区域周辺において、「第 3 回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書」により自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源として小瀬田の海成段丘が挙げられる。また、事業実施区域の南側にはタングステン(タングステン)の鉱山跡である早崎鉱山跡が挙げられる。

表 3.1-38 事業実施区域周辺の主な景観資源

種類	名称	位置
海成段丘	小瀬田の海成段丘	⑤
鉱山跡地	早崎鉱山跡	⑥

注) 表中の位置の欄の番号は図 3.1-17 内の番号を示す。

出典:第 3 回自然環境保全基礎調査自然環境情報図(環境省、平成元年)、屋久島町提供資料



凡例

- - - 資材運搬車両経路
- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 眺望点
- 景観資源

0 0.5 1 2 km

1:50,000



図 3.1-17 景観

2) 人と自然との触れ合いの活動の場

屋久島の主要な人と自然との触れ合いの活動の場は、表 3.1-39 に示すとおりであり、事業実施区域周辺における位置は図 3.1-18 に示すとおりである。

事業実施区域周辺には、ふれあいパーク屋久島が挙げられる。

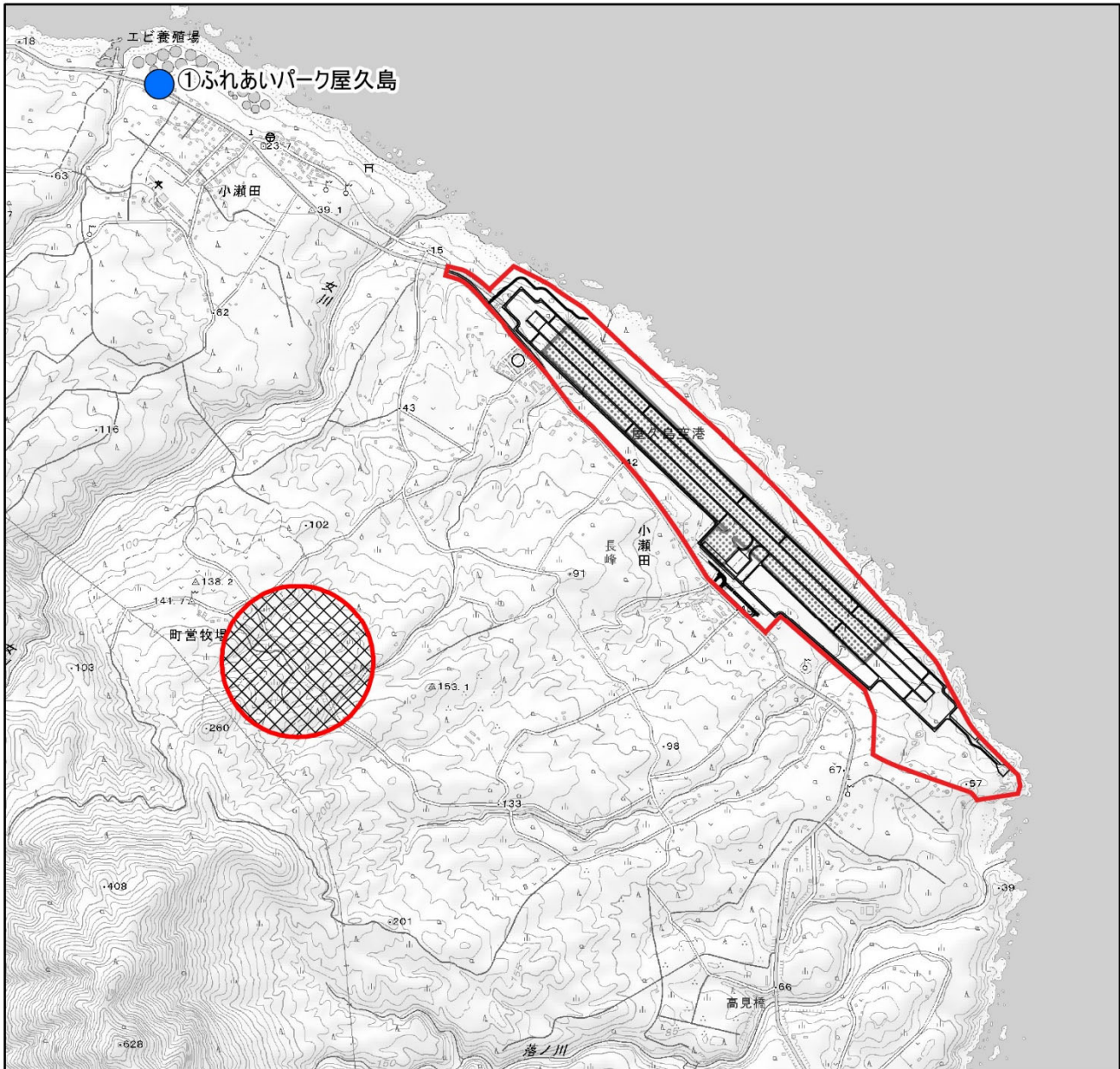
表 3.1-39 主要な人と自然との触れ合いの活動の場

区分	種類	名称	位置
野外レクリエーションを通じた人と自然との触れ合いの活動の場	公園	石楠花の森公園	—
		屋久島フルーツガーデン	—
		ヤクスギランド	—
		ふれあいパーク屋久島	①
		なごりの松原	—
		屋久島総合自然公園	—
		屋久島環境文化村センター	—
		志戸子ガジュマル公園	—
	海水浴場	一湊海水浴場	—
		栗生浜海水浴場	—
		春田浜海水浴場	—
	温泉	湯泊温泉	—
		平内海中温泉	—
		尾之間温泉	—
		楠川温泉	—
		ゆのこの湯	—
		大浦の湯	—
		屋久島温泉	—
	登山道	大株歩道	—
		楠川歩道	—
		永田歩道	—
		花山歩道	—
		栗生歩道	—
		湯泊歩道	—
		尾之間歩道	—
		安房登山道	—
		愛子岳登山道	—
本富登山道		—	
太忠岳登山道		—	
安房前岳登山道		—	
益救参道	—		
日常的な人と自然との触れ合いの活動の場	海岸	永田いなか浜	—
		塚崎タイドプール	—
		田代海岸	—
	滝	布引の滝	—
		大川の滝	—
		トローキの滝	—
		竜神の滝	—
		千尋の滝	—
	景勝地	白谷雲水峡	—
		猿川ガジュマル	—

注) 表中の位置の欄の番号は図 3.1-18 内の番号を示す。

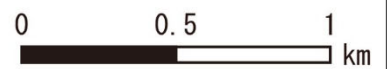
出典: 屋久島町ウェブサイト、やくしまガイドブック(屋久島観光協会)

たねやく観光ガイドマップ<屋久島>(鹿児島県熊毛支庁総務企画課)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域(土砂採取区域)
- 現滑走路等
- 新滑走路等
- 人と自然との触れ合い活動の場



1:25,000



図 3.1-18 人と自然との触れ合いの活動の場

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

平成 23 年 3 月の福島第一原子力発電所事故を受け、原子力規制庁が各都道府県に委託して放射能の分布状況を把握する調査が実施されているが、屋久島町では行われていない。

なお、西之表市(種子島)において実施されている放射線量の調査結果を表 3.1-40 に示す。調査結果によると、国際放射線防護委員会(ICRP)が定める公衆の線量限度(年間 1 ミリシーベルト)を下回っていた。

表 3.1-40 西之表市における年間(月平均)放射線量(単位: μ Sv/h)

観測月	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R 元年
1 月	-	0.033	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.030
2 月	-	0.033	0.034	0.032	0.032	0.031	0.032	0.032
3 月	0.031	0.033	0.032	0.032	0.031	0.032	0.031	0.031
4 月	0.031	0.033	0.032	0.031	0.031	0.031	0.030	0.031
5 月	0.031	0.033	0.032	0.032	0.031	0.031	0.031	0.031
6 月	0.032	0.033	0.032	0.033	0.031	0.032	0.032	0.032
7 月	0.031	0.032	0.030	0.031	0.030	0.030	0.030	0.030
8 月	0.031	0.032	0.031	0.031	0.031	0.030	0.029	0.030
9 月	0.032	0.033	0.032	0.032	0.031	0.031	0.030	0.029
10 月	0.032	0.033	0.032	0.031	0.031	0.031	0.030	0.030
11 月	0.034	0.032	0.031	0.032	0.032	0.032	0.032	0.031
12 月	0.033	0.032	0.032	0.031	0.031	0.031	0.031	0.031
年間平均	0.032	0.033	0.032	0.032	0.031	0.031	0.031	0.031

注) 公衆の線量限度:年間 1 ミリシーベルト以下<国際放射線防護委員会(ICRP)>

平成 24 年 3 月は 3/30・3/31 の 2 日間のみ

なお、整理にあたり、測定単位である Gy/h (グレイ毎時) を 1 Gy/h (グレイ毎時) = 1 Sv/h (シーベルト毎時) に等量換算している。

出典:「環境放射線監視情報」(鹿児島県)<<http://www.env.pref.kagoshima.jp/houshasen/>>